

会報

第27号

平成26年(2014)5月1日

編集・発行
書学書道史学会
会報委員会

〒166-8531
東京都杉並区和田3-30-22
大学生協学会支援センター内
TEL: (03) 5307-1175

FAX: (03) 5307-1196

メールアドレス:
shogaku@univcoop.or.jp

いあごわり

澤田 雅弘

平成元年九月、伊藤伸・大場脩・萱原晋・木下政雄・興膳宏・杉村邦彦・西林昭一・松丸道雄の各氏が議論を交わす座敷の隅に畏まっていたのが、幹事候補として声を掛けていただきお供していた、大橋修一・杉浦妙子・鈴木晴彦・中村伸夫・弓野隆之ほかの各氏と私でした。「若い人にも意見を聞くうじやないか」「君等もなにか言いたまえ」の突然の声に、私たちはただ顔を見合すばかりでした。学会設立に向けての強く熱い思いに圧倒され、一言も発せられなかったのです。熱海つるやホテルで開かれた設立準備委員総会初

日のことです。その後、四半世紀の間、私は本学会に牽引されあるいは後押しされながら、育てられて今日を迎えています。本学会との縁を思い返すにつけ、感謝の念が興り、恩返し of 思いが募ります。



本学会は、翌平成二年に正式に発足し、以来、着実に足腰を強くし、多くの実績を挙げてきました。これはひとえに、役員の尽力と会員の支援とが結集した成果にほかな

りません。また、創設以来、事務局長として学会業務の多くを担ってこれた萱原氏の平成二十一年度末定年にもなる本部事務局移転の大問題は、大橋前理事長と鈴木前事務局長のご苦勞によって全てが解決し、本学会は新たな一步を踏み出すことになりました。このたび理事長を仰せつかりましたが、こうした先輩が開拓され強化された足跡を思うと、責任の重さに身が引き締まります。

この新たな局面に、私たち新役員は、何をすべきなのか何ができるのか、思うままにメモをとってみました。頭在する課題のほかにも内蔵する課題もありましょう。これらを役員が共有することから始めたいと思ったからです。この私たちのメモから、さっそく二つの改善を進めることになりました。課題はほかにも多くありますが、幸い、役員は信頼の厚い方々ですし、幹事も有能な方ばかりですので、みなさんに支えていただきながら、できるところから始めたいと思います。二年の任期に、どれほどのことができるかわかりませんが、会員各位のお力添えをお願いします。

現代の科学的精神に基づく書学並びに書道史学は、誕生して間もない若い学問といえます。まだまだ手探りの状態でもありますが、そもそも書は学際的ですから、隣接諸学との関わりを含め、多くの可能性を秘めていますし、若い芽も多く育ちつつあります。また、私たちのこの学問は書作活動とも有機的な関係を有し、互いに補完し活性化しあえる特性をもっています。私たちはこの特性と若さと将来性を力に、あらゆる可能性をたくましく探求し、いっそう飛躍していききたいものです。学会は、同学が年輩の差を越えて集い、刺激し啓発しあう場であればなりません。そのためには、会員お一人お一人が積極的に学会に関わっていただける環境への取り組みを、さらに進めたいと思っています。会員各位におかれましても、学会との縁をいっそう強いものにし、学会の活力の源となつてくださいますよう、お願いします。

(理事長)

第25回 書学書道史学会大会開催のお知らせ

国内局

今年度の書学書道史学会大会は、9月13日(土)・14日(日)の両日、京都の花園大学自適館(京都市中京区西ノ京壺ノ内町8-1)において開催いたします。

詳細および参加申込については、8月中旬に「大会のしおり」として研究発表のレジュメとともにご案内を差し上げます。また、ホームページでもお知らせいたします。現時点での概要は以下の通りですので、ご予約おきいただければ幸いです。



○理事会

【9月13日(土)】
11時00分〜 花園大学自適館 201教室

○大会

【9月13日(土)】
12時30分〜 受付開始・花園大学自適館
13時00分〜 14時00分 開会式・総会
14時00分〜 15時45分 シンポジウム
「書学書道史と隣接諸学」(仮題)
16時00分〜 17時30分 研究発表(2〜3本)
18時00分〜 懇親会
(於 真人館地下食堂ふるーる)

【9月14日(日)】

8時40分〜 受付開始・花園大学自適館
9時00分〜 研究発表(4〜5本)
12時00分〜 13時30分 記念撮影・昼食・特別展示花園大学歴史博物館(自由参観)
13時30分〜 研究発表(4本)
16時00分〜 16時10分 閉会式

○展示(予定)

【9月13日(土)・14日(日)】
花園大学歴史博物館にて特別展示
※展示品については、目下交渉中。墨跡関係の展示を予定。

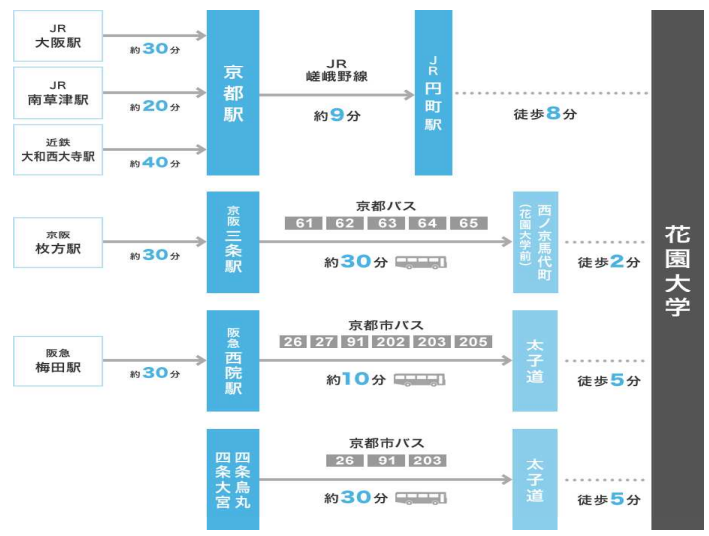
○会場へのアクセス
JR嵯峨野線円町駅下車徒歩8分ほか
※詳細は右下図参照

○宿泊施設

役員・会員ともに、各自でのご手配下さい。

〈お問い合わせ〉

花園大学文学部日本文学科書道コース
下野健児(下野研究室)
☎075・811・5181(代)
メールアドレス k-shimom@hanazono.ac.jp



今年度の「第25回書学書道史学会大会」は、花園大学（京都）において、前掲の通り開催されます。研究発表会場は今年も従来通り一室制とし、原則として分科会方式はとりません。また、大会日程が例年より早い関係もあり、本年度はこれまで6月に実施しておりました若手研究発表会は開催されません。若手を含む会員各位多数の積極的な発表を期待いたします。奮ってお申し込み下さい。

記

- ① 発表日時：平成26年9月13日（土）・14日（日）の両日予定 ※時間帯は前掲参照
 - ② 発表時間：30分（発表20分・質疑応答10分）
 - ③ 申込方法：件名を「大会発表申込」として「所属・氏名・連絡先」を明記の上、電子メールにて発表内容の題目と800字程度のレジメを添付して下さい。なお、電子メールの使用が困難な場合、以下の発表申込先までお問い合わせ下さい。
 - ④ レジメ：原則としてワープロ（テキスト形式・ワード形式・太郎形式など可）で作成し、電子メールに添付してご送信下さい。
 - ⑤ 発表申込締切：平成26年6月20日（金）必着
 - ⑥ 発表者の決定と連絡：大会での発表者は常任理事会で決定次第（6月末予定）、個別に採否をご連絡いたします。
 - ⑦ 『大会のしおり』（レジメ集含む）の配布：8月中旬に全会員宛に郵送いたします。また、ホームページでも公開いたします。
- ※ 大会での発表者は、学会誌『書学書道史研究』第25号（平成27年度秋刊行予定）への論文投稿申込があったものとして扱われます。改めて学会誌への投稿申込をする

事務局よりお願い

◆年会費について

本号に年会費納入用の郵便振替用紙が同封されています。年会費納入は、6月末日までに納入ください。

なお、平成26年3月現在、会費を滞納している方には、本年度分に滞納年度分を加算した金額が記載されています。速やかに全額をご納入ください。また、3年以上滞納の方は、すでに導入されている「長期会費滞納者の自動退会（除籍）制」の適用対象となります。ただし、退会（除籍）適用対象者となった場合であっても、退会届提出の年度分までの合算額における学会費の請求権は消滅しません。本件に関して、会員台帳別表にて管理の上、適宜納入

請求を続けることが総会にて決定されていますので、予めご了承ください。

◆学生会員の「会員変更手続き」について

本学会では、学生会員の「有期会員制」を導入しています。この制度は学生会員（学生会費適用の方）が大学院を修了、または満期退学・中途退学、その他の理由により学籍を失った時（学生証の発給対象でなくなった時）に、「学生会員資格終了」とするものです。該当の方で、引き続き一般会員として留まる場合、必ず会員変更手続き（会員変更申込書）の提出が必要です。とりわけ、今春に学生

必要はありません。

※ 学会誌論文原稿の投稿締切は、平成27年3月31日です。ただし、原稿掲載の採否は査読委員会が決定されます。なお、学会誌関連で不明な点は、大学生協学会支援センター内「編集局」メールアドレス：shogaku@univcoop.or.jpまでお問い合わせ下さい。

〈発表申込先〉

【国内局】
〒582-8582 柏原市旭ヶ丘4-698-1
大阪教育大学美術教育講座 萱のり子宛
☎072-978-3740（萱研究室）
メールアドレス nkaya@cc.osaka-kofu.ac.jp

事務局

会員資格を失った方は、至急手続きをお願いします。「会員変更申込書」は、学会ホームページからダウンロードできます。会員変更手続きにより、自動的に一般会員資格が付与されます。なお、「会員変更申込書」下の「紹介会員氏名」「役員推薦氏名」「理事会承認」各欄は、無記入で結構です。

「会員変更手続き」を含め、その他の問合せや書類送付先は、本会報一面の事務局（大学生協学会支援センター内 担当・井手富士雄 メールアドレス：shogaku@univcoop.or.jp）へお願いいたします。

本学会選挙管理委員会は、第12期役員任期満了にともない、選挙管理規定に基づいて平成26年2月20日を投票締切日と定め、郵送による第13期役員選挙を実施しました。

開票作業は2月23日、杉浦妙子選挙管理委員長以下、選挙管理委員により、大東会館会議室において実施されました。投票状況については、投票有権者数505票のうち、有効投票数106票・投票率21%（平成24年：65票、平成22年：47票、平成20年：61票、平成18年：92票）でした。開票結果を受け、同規程第6条により、以下の通り選挙選出理事10名、監事2名を当選者として確定しました。但し、当選理事の大橋修一、鈴木晴彦、横田恭三の3氏の辞退により、大野修作、笠嶋忠幸、菅野智明の3氏が繰り上げ当選となりました。投票結果は以下の通りです。（以下五十音順）

〔常任理事〕
菅のり子（大阪教育大学教授） 国内局長
高城弘一（大東文化大学教授） 国内局長
富田 淳（東京国立博物館列品管理課長 国際局長
森岡 隆（筑波大学教授） 学術局長
大野修作（元京都女子大学教授） 副国内局長
※笠嶋忠幸（出光美術館） 副国内局長
※菅野智明（筑波大学准教授） 副編集局長

〔理事〕
※小川博章（淑徳大学教授）
副事務局長・副会報委員会委員長
杉木原くみ（相模女子大学教授）
副編集局長・副会報委員会委員長

〔監事〕
杉浦妙子、名児耶明

◆第13期役員・幹事・諮問委員・選挙管理委員

第13期役員選挙の開票、当選者決定を受け、平成26年3月1日に選挙選出理事によって、理事長の互選と理事長指名理事10名を選出しました。これに続き、3月16日に開催された第57回臨時理事会において、各事業部局の分掌、諮問委員、選挙管理委員会委員を以下の通り決定し、第13期役員会等が発足しました。今期の役員・幹事・

諮問委員、選挙管理委員の任期は、平成26年4月1日から平成28年3月31日までです。（※は新任）

《役員》（各五十音順）

〔理事長〕

※澤田雅弘（大東文化大学教授）

〔副理事長〕

※河内利治（大東文化大学教授） 研究局長
中村伸夫（筑波大学教授） 編集局長

〔常任理事〕

菅のり子（大阪教育大学教授） 国内局長
高城弘一（大東文化大学教授） 国内局長

富田 淳（東京国立博物館列品管理課長 国際局長
森岡 隆（筑波大学教授） 学術局長

大野修作（元京都女子大学教授） 副国内局長
※笠嶋忠幸（出光美術館） 副国内局長

※菅野智明（筑波大学准教授） 副編集局長

※小川博章（淑徳大学教授）

副事務局長・副会報委員会委員長
杉木原くみ（相模女子大学教授）

副編集局長・副会報委員会委員長

下野健児（花園大学教授） 副国内局長
鈴木晴彦（日本大学教授） 副事務局長

※高橋利郎（大東文化大学准教授） 副研究局長
永由徳夫（群馬大学准教授） 副研究局長

信廣友江（安田女子大学教授） 副国内局長
福田哲之（島根大学教授） 副学術局長

弓野隆之（大阪市立美術館主任学芸員） 副国際局長
横田恭三（跡見学園女子大学教授） 副国際局長

〔監事〕

杉浦妙子（二松学舎大学講師）
名児耶明（五島美術館学芸部長）

《幹事》（各局五十音順）

国内局：石井 健 ※川畑 薫 谷口邦彦
※丸山猶計 ※山口恭子 ※山本まり子

国際局：※佐々木佑記 鍋島稲子
研究局：※権田瞬一 ※角田健一

学術局：尾川明徳 ※高橋佑太 橋本貴朗
矢野千載

編集局：※増田知之
事務局：金子 馨 ※野中直之 藤森大雅

六人部克典

《諮問委員》（五十音順）

赤尾栄慶 安達直哉 荒金信治 小川靖彦
押木秀樹 河野 隆 岸田知子 神野雄二
高木厚人 長野秀章 萩 信雄 平形精一
増田 孝 松本仁志 宮崎洋一 宮澤正明

《選挙管理委員会》（各五十音順）
委員長 杉浦妙子
委員 杉木原くみ 高城弘一 ※永由徳夫
※亀澤孝幸 亀田絵里香
（以上、理事・監事枠より4名）
（以上、会員枠より2名）

国内局

昨期は横田恭三国内局長のもと、主として関西での諸行事を担当させていただいております。今期に国内局長をひきづくにあたり、これまで定期的に開催してきた鑑賞セミナーや若手研究発表会の見直しが懸案となっております。さしあたり従来六月に開いていた若手研究発表会は、本大会の開催時期と近接するため、見合わせることにいたしました。発表者や参加者の確保、広報のあり方などが今後の課題となりますが、これまでの企画は参加人数の多少にかかわらず、有益な活動であったと思われます。今期はその良いところを生かしつつ、会員諸氏の研鑽がはかれるよう、国内での取り組みを進めていきたいと思っております。

まずは、本年九月に開催されます花園大学での大会が充実したものになるよう、当番校ははじめ皆様のご協力を賜りながら尽力したいと考えております。何卒よろしくお願い申し上げます。

(国内局長 萱 のり子)

国際局

中国における書法史の研究は、この数年間に限っても実にめざましく、学位論文が単行本として次々と出版され、また多くの専著も上梓されています。大学や美術館・博物館でのシンポジウムや特別展も相変わらず盛んに開催され、テーマの幅広さ、

研究の進度、研究者の層の厚さには、目を見張るものがあります。内外の研究者が一堂に会して開催する国際研討会は、数年の準備と潤沢な資金が必要となり、学会が単独で主催するのは容易ではありません。そこで本年度は、各地で開催される講演や特別展など、海外における學術の動向をできるだけ集め、学会ホームページなどを通して情報発信の強化につとめてまいります。また昨年度、大東文化大学で開催された傅申先生のご講演のように、著名な研究者の来日活動があれば、学会としても出来る範囲で後援をさせていただきたいと思えます。会員の皆様方におかれましても、情報の提供にご協力ください。

(国際局長 富田 淳)

学術局

引き続き学術局を担当させていただくこととなりました。福田哲之副局長、幹事の矢野千載(盛岡大学教授)、橋本貴朗(國學院大學准教授)、尾川明徳(安田女子大学助教)各氏も留任ですが、新たに高橋佑太氏(大妻女子大学非常勤講師)にも幹事に加わっていただきました。

学術局業務として、インターネットにおける学会誌公開があり、独立行政法人科学技術振興機構運営のJ-STAGEへの論文データ登録によって進めています。平成二十四年春に十九号・二十号を公

開し、十八号までを掲載したジャーナルアーカイブも統合されました。同年秋季には二十一号を掲載し、以後学会誌刊行から一年後に公開予定でしたが、幹事諸氏の尽力で二十二号から概ね半年後に掲載することとなり、昨秋刊行の二十三号も四月に公開いたしました。今後とも利便性向上を図ってまいります。

三十四の正会員学協会とオプザーバー三学会から成る東洋学・アジア研究連絡協議会など、関連学術団体への対応も当局の務めです。折々に報告いたします。

(学術局長 森岡 隆)

研究局

特定領域研究促進助成金制度「平成二十六年度募集要項」がホームページにアップされていますので、是非一読の上、応募願います。平成二十六年度も次の二領域です。

- 1 近現代書学書道史—上限は、おおむね主たる活動や事象が、中国に在っては辛亥革命以降、日本にあつては明治維新以降であるもの。他の地域についてもこれに準ずる。下限は物故者、あるいは物故者が主な関係者である活動や同時期の事象であるもの。

- 2 新出土資料—出土年がおおむね十年前までのもの。

■申請受付期間は、平成二十六年六月一日（日）～六月三日（火）です。

■詳細はホームページの募集要項をダウンロード（Word形式）してご覧ください。

■問い合わせ先：stogaku@univcoop.or.jp

■問い合わせ方法：Eメールのみ（平成二十六年度特研助成問い合わせ」と記入ください）

■研究局では、既に公表されているとおり、多くの応募を期待して、平成二十七年年度以降の「特定領域研究促進助成金応募研究計画書」の簡素化を検討しています。また、書学書道史に関する研究会・シンポジウム・講演等の情報を会員諸氏に供与すべく、学会ホームページ上で公開の是非についても、今後の課題として検討しています。

（研究局長 河内利治）

編集集局

編集局は、局長・中村伸夫、副局長・菅野智明が中心となり、新たな体制で活動を始めることになりました。編集局の主たる任務は、学会誌『書学書道史研究』の編集と刊行ですが、現在すでに第二十四号の刊行（十月を予定）にむけて、巻頭に掲載予定の大西克也氏「文字統一と秦漢の史書」（第二十四回大会講演会）のほか、編集局が受理した査読を要する投稿論文の整理確認等の作業を行っています。六月に開催予定の次期常任理事会では、第二十四号の全体にわたる編集内容について具体的に提案し、査読結果状況などについても報告する予定です

が、新たな編集上の改革案についても審議をいただくことにしています。特に、これまで執筆者の負担が大きかった巻末の「会員研究動向」に関しては、新たな方針にもとづく改革案を模索中であり、具体的な新案として提出する予定です。すでに会員諸氏からご提案をいただきました、各論文のキーワードの表示や、執筆者の所属等の明記などに関しても、検討を行うことにしています。

（編集局長 中村伸夫）

事務局長・公報委員会公

このたび、鈴木事務局長の勇退にともない、新しく事務局長を拝命しました。常任理事ですら二期目の若輩には、十分荷が重いのですが、その任に当たった以上、「忘己利他」の精神で職務を全うしたく思います。幸いにも、澤田理事長や河内副理事長、高橋副事務局長は、勤務校の同僚ですから、何かと心強いものです。特に、澤田理事長とは、毎日のようにやり取りをして、学会の諸事について確認をしています。鈴木理事は副事務局長として、今後もアドバイスをいただけるものと思います。

事務局長と同時に会報委員会委員長も拝命しました。委員長は、常任理事が当たるという規定から、充て職的ですが、今号の会報は陣頭指揮を執りました。次号からは、副会報委員会委員長・小川副事務局長を中心に編集をと願っています。副会報委員会委員長・柿木原副編集局長の経験も重要です。実務をともなった金子・六人部両幹事には、今

期も残留いただき、野中・藤森両新幹事に引き継いでもらえればと思います。

学会のホームページは、携帯電話やスマートフォンでもきれいに見られるということが、ホームページの管理者とのやり取りで判明しました。たいへん見やすく、機能的です。会員各位においては、身近なところでも大いに活用いただけたらと思います。

（事務局長・会報委員会委員長 高城弘一）

新入会員紹介 事務局長

（一般会員）

梅原尚子 京都教育大学非常勤講師
尾西正成 岡山理科大学附属高等学校教諭
光嶋美香 鳥取県立青谷高等学校教諭
坂本順司 埼玉県立越谷北高等学校教諭
松尾 治 東洋大学非常勤講師
染谷慶子 東洋大学非常勤講師

（学生会員）

池田絵理香 大東文化大学大学院生
大沢珠弥子 大東文化大学大学院生
大澤一輝 大東文化大学大学院生
関 俊史 早稲田大学大学院生
西原 歩 大東文化大学大学院生
湯浅圭祐 大東文化大学大学院生
栗原早紀 大東文化大学大学院生
坪井志穂 大東文化大学大学院生

※平成25年11月～26年3月に申請された方

本会会員の採択課題に限つたが、会員が分担研究者で、代表者が非会員である場合には※を付して代表者を末尾に付記した。複数の会員が関わる同課題については、当該課題のもとに代表者と分担研究者とを併記した。なお、所属の後の数字は、平成25年度のみ補助金の配分額、計画額には※を付した。

基盤研究(A)継続(平成22)東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究 赤尾栄慶(京都国立博物館) 富田淳(東京国立博物館)※代表:島谷弘幸(東京国立博物館)6,370千円

基盤研究(A)継続(平成22)石刻史料と史料批判による魏晋南北朝史の基本問題の再検討 福原啓郎(京都外国語大学)※代表:伊藤敏雄(大阪教育大学)5,200千円

基盤研究(A)継続(平成23)漢字文化圏における典籍の集積、国際的伝播及びその伝承に関する実証的研究 赤尾栄慶(京都国立博物館)※代表:石塚晴通(北海道大学)11,180千円

基盤研究(B)継続(平成21)礼拝空間における儒教美術の総合的研究 菅野智明(筑波大学)※代表:守屋正彦(筑波大学)2,800千円

基盤研究(B)継続(平成23)金剛寺所蔵典籍の集約的調査と研究―聖教の形成と伝播把握を軸として 赤尾栄慶(京都国立博物館)※代表:後藤昭雄(成城大学)4,530千円

基盤研究(B)継続(平成23)根来寺聖教の基礎的研究―智積院聖教を中心として― 赤尾栄慶(京都国立博物館)※代表:宇都宮啓吾(大阪大谷大学)6,630千円

基盤研究(B)継続(平成23)南山城地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究 赤尾栄慶(京都国立博物館)※代表:佐々木丞平(京都国立博物館)6,370千円

基盤研究(B)継続(平成23)南宋絵画史における仏画の位相―都と地域、中国と周縁― 板倉聖哲(東京大学)※代表:井手誠之輔(九州大学)3,770千円

基盤研究(B)継続(平成23)美術と宝物の相関性についての比較美術史的研究 板倉聖哲(東京大学)※代表:秋山聡(東京大学)6,370千円

基盤研究(B)継続(平成23)部分は全体を語る―断片化による手書き文字認識プロジェクト― 内田誠一(九州大学)3,880千円

基盤研究(B)継続(平成23)中国語文法史の歴史的展開―構文と文法範疇の相関的変遷の解明 大西克也(東京大学)3,120千円

基盤研究(B)継続(平成23)東アジアに展開した儒教文化の視覚イメージに関する復元研究 菅野智明(筑波大学)※代表:柴田良貴(筑波大学)2,730千円

基盤研究(B)継続(平成23)日中校勘学の発展と相関をめぐる複合的研究 近藤浩之(北海道大学)※代表:水上雅晴(琉球大学)1,080千円

基盤研究(B)継続(平成23)学習基盤の形成を促進する書字力育成プログラムの開発 鈴木慶子(長崎大学)1,800千円

基盤研究(B)継続(平成24)日中比較による書学資料の文献学的研究 菅野智明(筑波大学)3,900千円

基盤研究(B)継続(平成24)中国道教の地理的イメージと宗教的ネットワークに関する総合的調査と研究 土屋昌明(専修大学)4,080千円

基盤研究(B)新規 前近代中国における交通路と関津の環境史学的研究 福原啓郎(京都外国語大学)5,200千円

基盤研究(C)継続(平成21)日本の篆刻に関する基礎的研究 神野雄二(熊本大学)80千円

基盤研究(C)継続(平成23)日本中世期における易学の内容と発展に関する研究 近藤浩之(北海道大学)1,580千円

基盤研究(C)継続(平成23)書字困難児の早期支援プログラムの開発 齋木久美(茨城大学)※代表:勝二博亮(茨城大学)910千円

基盤研究(C)継続(平成23)中国北朝墓誌における特定刻法の伝播に関する基礎的研究 澤田雅弘(大東文化大学)380千円

基盤研究(C)継続(平成23)本阿弥光悦筆和歌巻の特徴解明と伝光悦筆和歌巻の真贋鑑定法の確立 森岡隆(筑波大学)2,820千円

基盤研究(C)継続(平成24)中国西周時代昭王期の金文研究 古木誠彦(九州女子大学)720千円

基盤研究(C)継続(平成24)書字学習における幼小連携を円滑にする教材の開発 齋木久美(茨城大学)1,800千円

基盤研究(C)継続(平成24)戦国秦漢簡牘文字の多様性と変遷に関する実証的研究 福田哲之(島根大学)2,800千円

基盤研究(C)新規 「言語力」と「コミュニケーション能力」を育成する書字教育カリキュラムの開発 青山浩之(横浜国立大学)1,170千円

基盤研究(C)新規 近世後期讀破・阿淡の書道文化―儒学者のかかわりを中心に― 太田剛(四国大学)230千円

基盤研究(C)新規 『李卓吾先生批評三国志』諸本の研究 中川諭(大東文化大学)1,170千円

基盤研究(C)新規 隸書再発見のメカニズム―中国中世期の石刻資料を端緒として― 東賢司(愛媛大学)1,830千円

基盤研究(C)新規 小・中学校国語科書写における書字過程に着目した硬筆楷書教材開発及び授業開発 樋口咲子(千葉大学)1,040千円

挑動的萌芽研究 新規 「手書き」が培うリテラシーに関する研究を推進するための基礎調査 鈴木慶子(長崎大学)2,340千円

若手研究(B)継続(平成23)未調査仮名目筆資料の分析による文字・表記意識の通時的研究 家人博徳(国学院大学)830千円

若手研究(B)新規 中国明末期書画論の基礎的研究―董其昌理論の変遷を軸として― 尾川明穂(安田女子大学)950千円

若手研究(B)新規 <セ>病患者・回復者による芸術文化活動の意味と芸術性 金貴粉(大阪経済法科大学)1,040千円

特別研究員奨励費 継続(平成23)近衛家熙を中心とする近世入木道(書道)及び和歌文学の研究 緑川明憲(慶應義塾大学)280千円

国文学研究と書道史研究

小川 靖彦

近代の書道史研究は、歌人、国史・国文学者、書家の集う難波津会から始まった。その後、国文学と日本書道を総合的に捉えようとした尾上柴舟や吉澤義則らの論を見たものの、国文学研究は書を写本の年代測定材料とする文献学へ、書道史研究は美術史研究の方へと互いの距離を広めていった。

国文学の写本、特に調度本において内容と書は本来不可分のものである。一見誤写と見える本文が書の姿を考えた結果のことがある。また詩歌の書は、空間芸術であるにとどまらず、時間軸に沿って「読む」という時間性も持つ。

二つの学問がそれぞれに蓄積してきた研究成果を携え、内容から見た書、書から見た内容という視点が交わる時、新しい地平が拓かれるに相違ない。

なぜ東か？

田野倉 美貴

先日、篆刻の稽古中のことです。私は、『荀子』の宥坐篇に見る「萬折必東」という四字句を選び、印を刻ることにしました。この句は、川は幾度となく折れ曲がり、蛇行しながらも必ず東を目指して流れてゆき、つまり志操の意味を表しています。

ところで、「なぜ東か？」。私は師の思

いがけない質問に答えることが出来ませんでした。「東」である理由は実にシンプルでした。その答えは、中国大陸から見て海は東側にあるからです。

普段、作品制作や調べ物をする時、私は一つのことを気を取られてしまう傾向があります。常に幅広い視野を持ち、僅かな点にも目を配ることの大切さを実感しました。そのような心構えを改めて師と中国の故事成語から学びました。

研究の方向

根来 孝明

昨年度より、同志社大学で美学芸術学科の授業を聴講している。美や芸術・美術史に関する話を聞き、その世界の広さに圧倒されながら、毎日を通している。

美や芸術を扱う世界で、書もそれらのジャンルの一つであるという認識は、ほとんどないように思う。書は美しい・書は芸術である・作品を覗けば書道史は分かる、というの、書に関わっている人間にだけ通じる理屈だ。美術史の研究者と関わるようになって、そのことを切実に感じるようになった。

これからは、書の世界で前提となっていく様々なことを、言葉で語っていく必要があると思う。その意味で、書学書道史に関する研究課題は山積みだ。ただ、一人では限界があるので、少しずつ仲間を集めて、研究を進めていきたいと考えている。

眞實問題と大田垣蓮月を通して

野中 直之

今春、京都・野村美術館にて「大田垣蓮月尼」展が開催され、外国人蒐集家のコレクションが並んだ。蓮月の展覧会は京都では三十年以上なかったとのことである。私が蓮月に興味を持ったのは、蓮月を研究テーマに挙げる後輩がいたためである。それ以来、展示即売会や売立目録などで蓮月の作品を見かける度に注視するようになった。

もともと蓮月には贋物が多いと聞いていたが、実際数多くの作品を見る中で一般的には蓮月で通っているものにも贋物が多くあることに気付いた。反対に、蓮月とは評価されていないものの中にも眞筆と思われるものが含まれることもあった。無論、この眞實の問題は蓮月に限ったことではない。何か作品をもとに論ずる上で、全ての根本に関わる重大な問題であり、より慎重を期する必要性を改めて痛感した。

編集集 後記

◆久しぶりの会報編集は右も左もわからぬ迷った子羊状態です。高城委員長の足を引く張らぬようにと心がけるつもりでしたが、早々にご迷惑をおかけしています。雑務に追われる毎日ではありますが、書物と筆に触れる時間を大切にしたいと思えます。(小川博章)

◆三月八日―三十一日、台湾高雄市の文藻外語大学に語学研修引率で出張し、書店・書道用品店、カフェの他、ひまわり学生運動の座り込み現場へも足を運び、「謝々」の一言で過しました。(柿木原くみ)

◆桜が散るように、時間が経つのは早いものです。二年間、自分にできることを積み重ねて参りたいと思います。(金子馨)

◆過去に一度、会報編集作業のお手伝いに加えていただいたことがございます。その時は中国留学を控えていた関係で、最後まで責務を全うできませんでした。この度、念願叶って再び会報編集に携わる機会を与えていただきました。これまで会報を支えてこられた先生方の功績を汚さぬよう、精一杯務めてまいりたいと思います。皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。(藤森大雅)

◆昨期に引き続き、本誌の編集に携わらせていただくことになりました。新たな体制のもと、作業内容について新幹事のかたにお伝えしていけるように努めたいと思っております。今期もどうぞ宜しくお願い致します。(六人部克典)

◆今春は、都内の桜の名所、数か所に花見に行くことができました。最後に行った新宿御苑の八重桜(関山や一葉など)は実に見事です。八重桜が散りかかるこのころ、やっと編集、発行の目途が立ちました。(高城弘一)